

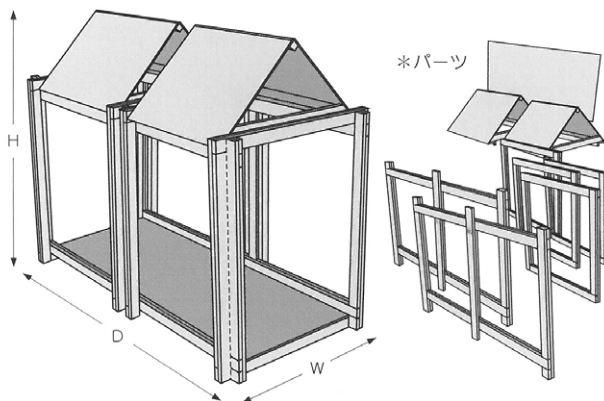
もしものときにあなたを守る！ 防災用具「あんしんベッド」

約21年前の平成7年1月17日明け方、淡路島北部を震源とするマグニチュード7.3の巨大地震が発生し、兵庫県を中心に甚大な被害を受けました。阪神淡路大震災です。その後も国内では、新潟県中越地震、東日本大震災、熊本地震などが発生しました。多くの活断層が存在する日本は、常に地震と隣り合わせの環境です。西条市においても、近い将来発生するといわれている南海トラフ大地震に向けた対策が急務となっております。

そうした中、サイクスでは地震が発生したその瞬間、身を守るための緊急避難用具として「あんしんベッド」を開発し、販売しています。

阪神淡路大震災では、犠牲となった方の約7割が建物の倒壊などによる圧迫死だったといわれています。地震では建物の倒壊以外に、土砂崩れや津波・火災などによる被害も深刻ですが、地震発生直後の屋内では、まず揺れに伴う照明器具などの落下物から身を守らなければなりません。また、天井や構造物が倒壊した場合、ほんのわずかな隙間が命を左右します。いつ起こるか分からない地震に

備えるための防災用具が、あんしんベッドです。



▲あんしんベッド

京都大学の特許技術を取り入れた構造

このベッドは、京都大学の小林正美名誉教授が開発したもので、揺れに強いのが特徴です。京都大学の特許である「入れ子フレーム構造体」という技術が用いられており、ベッド自体が地震に強いやぐら状の木造構造体となっています。



▲建物内に簡単に設置できます

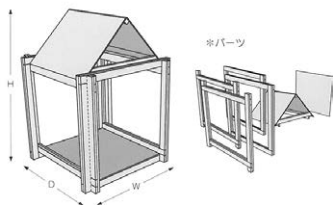
ベッドはフレーム、天板、底板の独立した3つのパーツで構成されており、パーツをはめ込み、隅をくさびで固定することで耐震性を備えた構造体が完成します。

小型で組み立てや移動・搬入が簡単のため、高齢者や障がい者などの地震時避難困難者が生活する木造住宅の居室にも、容易に設置することが可能です。

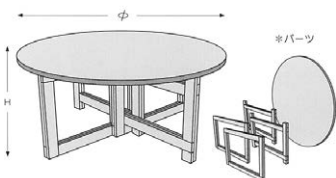
緊急時の避難シェルター

阪神淡路大震災以降、建築物の耐震化について多くのメディアで取り上げられ、住宅の安全性向上のため耐震補強工事に着手する方が増加しました。しかし、耐震工事には多額の費用が必要のため、全ての家庭で対策ができていないとはいえないのが現状です。

こどもシェルター



▲あんしんテーブル



であれば、建物の構造に手を入れることなく、家屋内の居住区に設置することが可能です。建物耐震を代替・補完する緊急避難シェルターとして、いざ地震が発生した際に身を守ることが出来ます。

あんしんベッドの基本サイズは、幅108センチメートル、長さ207センチメートル、高さ221センチメートルですが、家屋に応じてサイズの縮小が可能です。

保育園児や幼稚園児向けの「こどもシェルター」や、丸テーブル型の「あんしんテーブル」といったタイプもあります。設置場所のスペースなど、ご要望に応じたサイズのご提案も可能ですので、お気軽にサイクスにご相談ください。